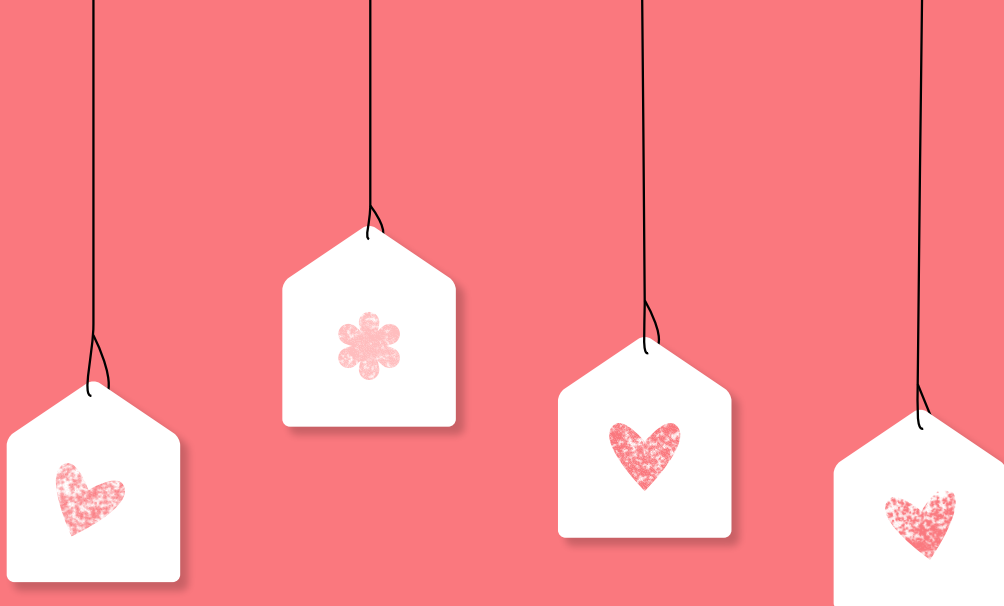




## 特集

# 高齢者の心不全を 在宅でケアする

日本人の死因第1位「がん」に次ぐのが、心疾患による死亡。その原因として最も多いとされるのが「心不全」です。心不全による死亡は85〜90歳にピークを認め、死亡した85%超が後期高齢者。必然的に、高齢者が多い在宅ケアの現場には、心不全患者が潜在しているといえます。

心不全の増悪、または再入院を防ぐためには、心機能が弱まった方の日々の暮らしを注視し、ときに指導的な介入が必要です。もちろん、併存疾患との関連性を意識したケアも欠かせません。

本特集では、そんな「心不全」の問題にフォーカスし、早期に発見・介入し、在宅で患者・利用者を支えていくための知識をまとめていきます。ある研究(J Card Fail 12:114-119, 2006)によると、夜の気温が下がる冬場には、心不全の発症が多くなるとのこと。冬の足音が近づいてきた10月のうちに総復習を！